

1 - 1 北海道とその周辺の地震活動 (1976. 6. 20 - 1977. 4. 30)

Seismic Activity in and around Hokkaido

(June 20, 1976 ~ April 30, 1977)

北海道大学地震予知観測地域センター
Observation Center for Earthquake Prediction
Faculty of Science, Hokkaido University

1976年7月に北海道大学の地震観測網がテレメータ化されて以来1977年4月までに震源決定された地震は約2500個に達した。これらの地震の震央分布図を示す。振動継続時間からマグニチュードを推定して、その大きさに従って□を描いてある¹⁻²⁾。3枚の分布図で見られる主な点は次の通りである。

① えりも岬南東沖では過去のJMAの震源分布でも地震活動の低いところであるが、1976年8月にやや顕著な群発的活動があった (Fig. 1)。

② 1976年10月31日には日高山脈南部にM5.0の地震があり、余震が続いた³⁾(Fig. 2)。Fig. 3ではこの余震域は空白になっているが、余震活動が終ったのかどうか追跡中である。

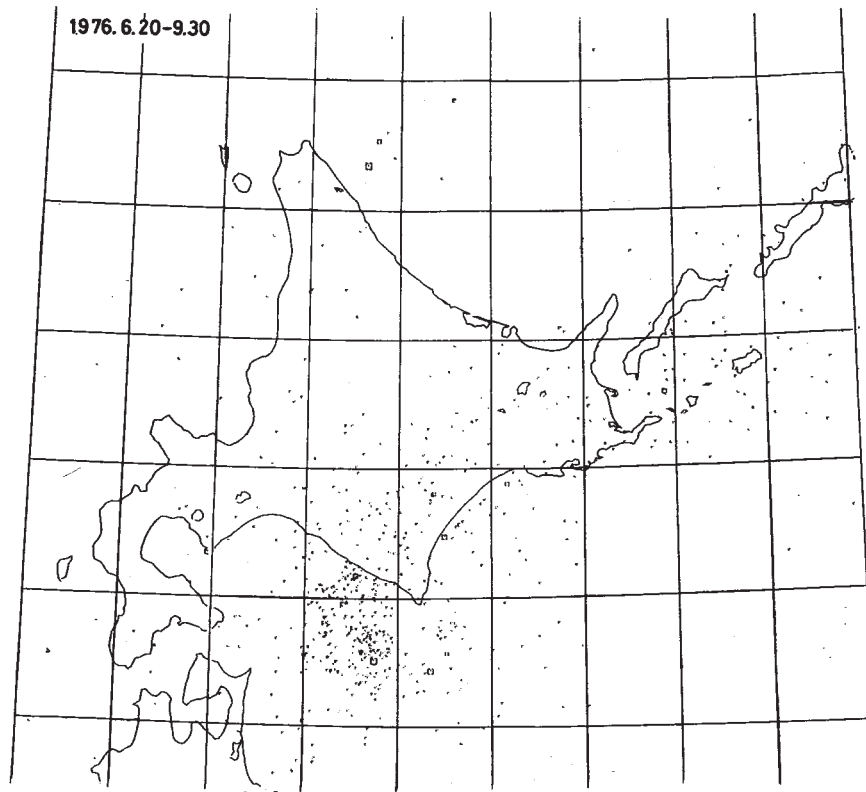
③ 1977年2月24日には御園観測点 (MSN) のすぐ近くでM6.0の地震があり、余震が続いた (Fig. 3)。本震の深さ47 km, 余震の深さは45 ~ 55 km。この地震の発生前の活動について調べたところ、直接の前震は観測されなかったが、約4ヵ月前より震源域の周辺で地震活動が活発になっていたのではないかと思われる (Fig. 4)。

④ 1973年根室沖地震の余震域での現在の地震活動はかなり低いようである (特に Fig. 1 の期間)。

(本谷義信, 高波鉄夫)

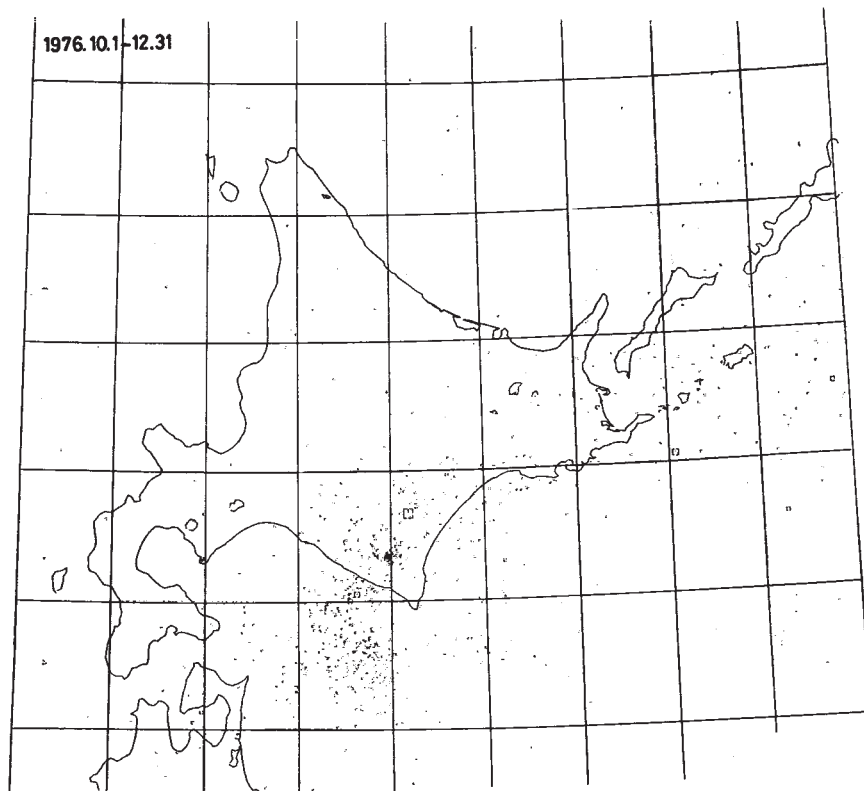
参 考 文 献

- 1) 岡山宗夫, 笠原 稔, テレメータ後の振動継続時間によるマグニチュード決定式, 北大地震観測センター速報, 1, 1977, 20 - 21.
- 2) 笠原 稔, 震央分布図作成上の一工夫とそれを用いた1961年~1975年のえりも岬周辺の地震活動, 北大地震観測センター速報, 1, 1977, 32 - 55.
- 3) 北海道大学理学部, 北海道南部の最近の地震活動, 連絡会報, 17, 1977, 9 - 11.



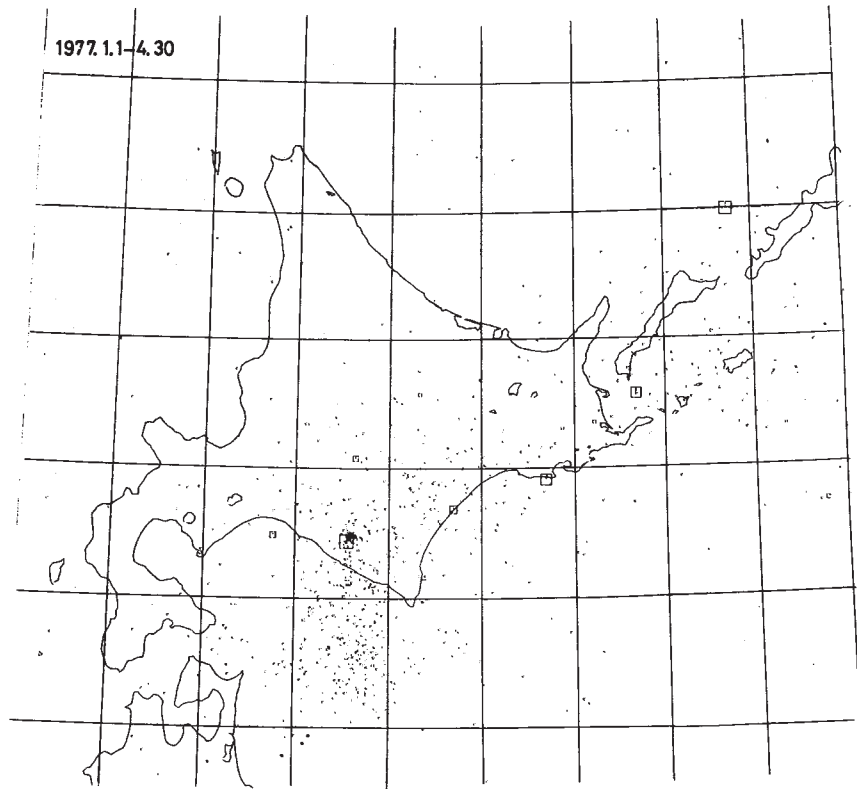
第1図 北海道とその周辺の震央分布（1976年6月20日～9月30日）。全ての深さの地震が含まれている。

Fig. 1 Distribution of epicenters in and around Hokkaido (June 20 ~ September 30, 1976)



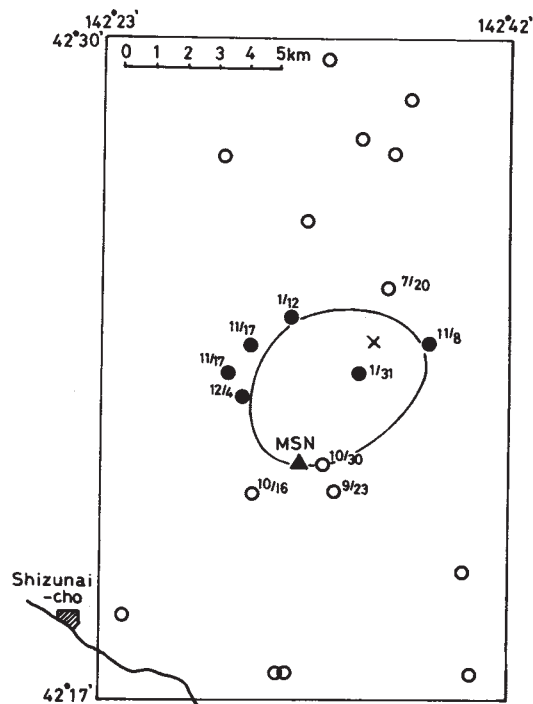
第2図 北海道とその周辺の震央分布（1976年10月1日～12月31日）

Fig. 2 Distribution of epicenters in and around Hokkaido (October 1 ~ December 31, 1976).



第3図 北海道とその周辺の震央分布（1977年1月～4月）

Fig. 3 Distribution of epicenters in and around Hokkaido (January 1 ~ April 30, 1977).



第4図 御園地震（1977年2月24日，M=6.0）の震源域付近の地震活動。1976年6月20日より御園地震発生までの震央分布。（×が本震，1976年11月以降の地震は黒丸で示す，数字は日付，楕円は余震域，▲はMSN観測点）

Fig. 4 Seismicity map around the epicentral area (inside ellipse) of Misono earthquake (×) (1977 Feb. 24, M=6.0).

Open circle represents shock from June 20 to October 31, 1976 and solid circle from November 1 to the origin time of Misono earthquake. Date of shock is given by month/day. ▲ is Misono observation point.